

第十二條 前條第一號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ列員ヲ一列トナシ成ルベク廣ク間隔ヲ取ラシムル爲〔何〕番基準〔何步〕間隔一列横隊作レ——進メ〕ノ號令ヲ下シ次ニ「休メ」メ號令ヲ下ス列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ不動ノ姿勢ヲ取り敬禮ヲ行フベシ
 點檢官ハ適宜ノ地點ニ位置シ又ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過シ點檢ヲ行フベシ但シ指揮者ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

前條第二號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ列ノ右翼ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮者ハ適當ノ地點ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ右翼嚮導ヨリ順次左翼嚮導ニ至リ後列、押伍列ニ及ビ前進シ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ元ノ左翼嚮導ノ位置ニ相對シテ停止ス〔第二圖參照〕列員ハ出發點ニ到リタルトキハ不動ノ姿勢ヲ取り前者ノ敬禮終レバ指揮者ノ指揮ヲ待タズシテ出發スベシ

前條第三號乃至第五號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ「前列一步前へ——進メ」ノ號令ヲ下シタル後列ノ中央前ニ出發點ヲ定メ、點檢官及指揮者ハ適當ノ場所ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス但シ第三號ノ點檢ニ在リテハ豫メ敬禮目標ヲ指示スルモノトス前列員ハ各其ノ位置ヨリ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼嚮導ノ背後ヨリ前後列員ノ中間ヲ通過シ舊位置ニ復シ後列員ハ各其ノ位置ヨリ右翼嚮導ノ右端ヲ通過シテ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼嚮導ノ左端ヨリ後列ノ背後ヲ通過シテ舊位置ニ復スベシ押伍列員ハ後列員ノ例ニ倣フ點檢終レバ指揮者ハ「後列一步前へ——進メ」ノ號令ヲ下スベシ〔第參圖參照〕出發及行進ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

前條第六號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ定位ニ著キ點檢官ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過スベシ指揮者及列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ敬禮ヲ行フベシ

前條第七號ノ點檢ノ方法ハ點檢官受禮者トナルノ外前項ニ準ス

第十三條 禮式及教練ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十四條 中隊及大隊ニ在リテハ通常點檢ノ一部ヲ行ハザルコトヲ得

第十五條 第六條第二號ノ點檢ハ機械器具ノ保存手入ノ良否及應急準備ノ適否ヲ検査スルモノトス

第十六條 第六條第三號ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十七條 通常點檢終リテ點檢官退場スルトキハ第十條第一項ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

第三章 特別點檢

第十八條 特別點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付検査ヲ行フモノトス

一 物品

二 機械及器具

第十九條 前條ノ點檢ハ毎年一回以上之ヲ行フモノトス

第二十條 第十八條第一號ノ點檢ハ被服、携帶品等ノ正否及使用保存ノ當否ヲ検査スルモノトス其ノ不適當ト認ムルモノハ速ニ修繕セシムベシ

第二十一條 第十八條第二號ノ點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付検査ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ其ノ一部ヲ省略スルヲ妨グズ

一 機械

- (イ) 腕用ポンプハ分解内部検査、真空試験及放水試験
- (ロ) 蒸気ポンプハ汽罐ノ水壓試験、ポンプノ真空試験及放水試験
- (ハ) ガソリンポンプハ原動機ノ氣筒壓縮壓力試験、ポンプノ真空試験及放水試験

二 器具

- (イ) 吸管、水管ノ修理及保存ノ良否
- (ロ) ポンプ附屬品ノ完否
- (ハ) 各豫備品及消耗品ノ整否
- (ニ) 救護救命器具、破壊器具並工作器材及救急衛生用材料ノ整否及其ノ保存手入ノ良否
- (ホ) 防毒具、檢定器、消毒用器具及藥品ノ整否、性能ノ良否並ニ保存方法ノ適否

第二十二條 指揮者ハ前條ノ點檢ニ先チ検査ニ便ナル準備ヲ爲サシムベシ

當該機械ヲ擔當スル者ハ機械、後方ニ整列シ必要アルトキハ其ノ操作運用ニ從事スベシ

第二十三條 點檢官ハ第二十一條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲シ必要ト認ムルトキハ修理又ハ補充ヲ命ズベシ

第四章 現場點檢

第二十四條 現場點檢ハ防空、水火消防、其ノ他、警防作業終リタルトキ現場ニ於テ左ノ各號ノ事項ニ付検査ヲ行フモノトス

一 人員及服裝

二 機械及器具

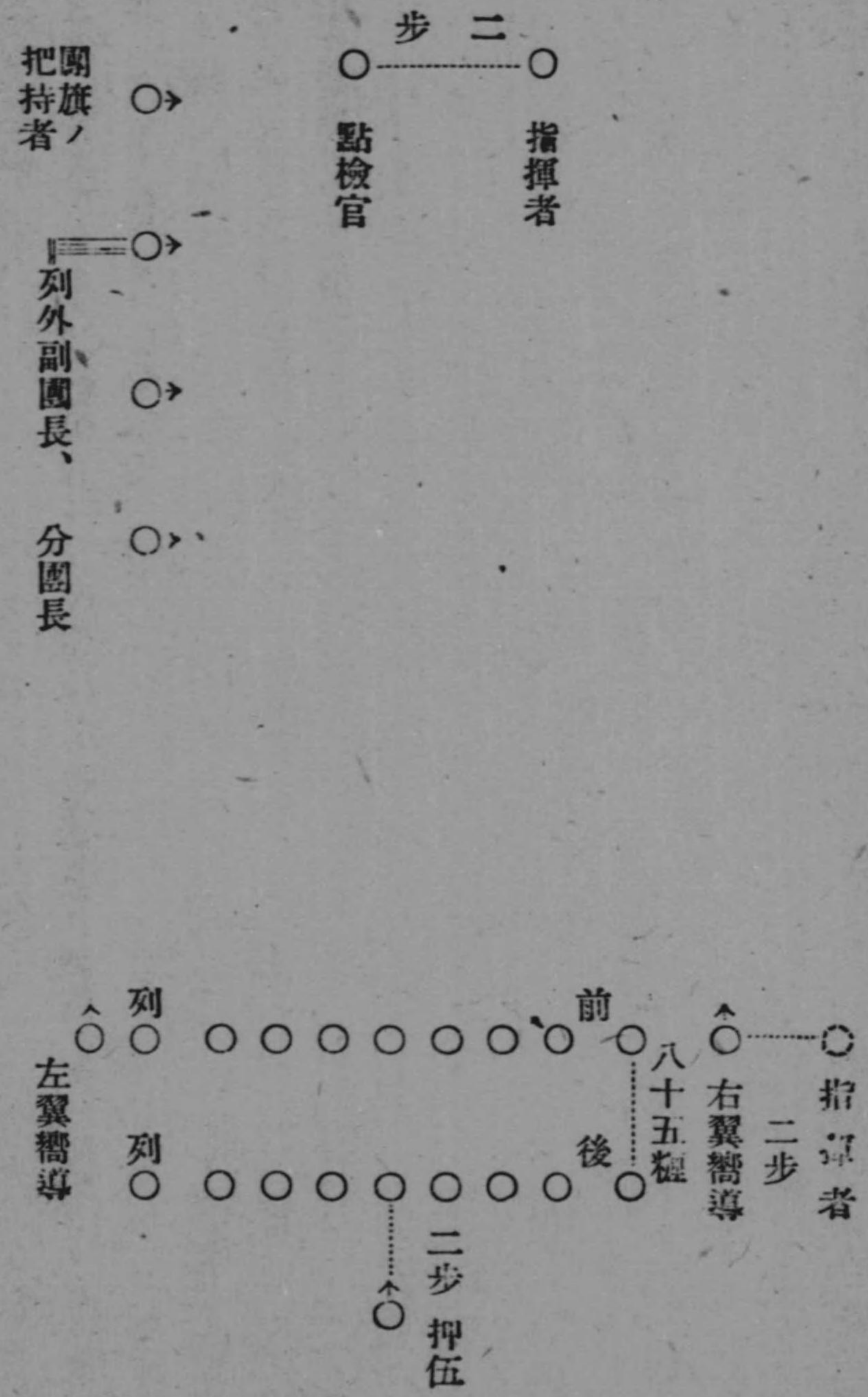
第二十五條 警防團員ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ物品若ハ機械器具ヲ毀損シ又ハ滅失シタルトキハ集合後指揮者ニ申告シ點檢官ノ検査ヲ受クベシ

附 則

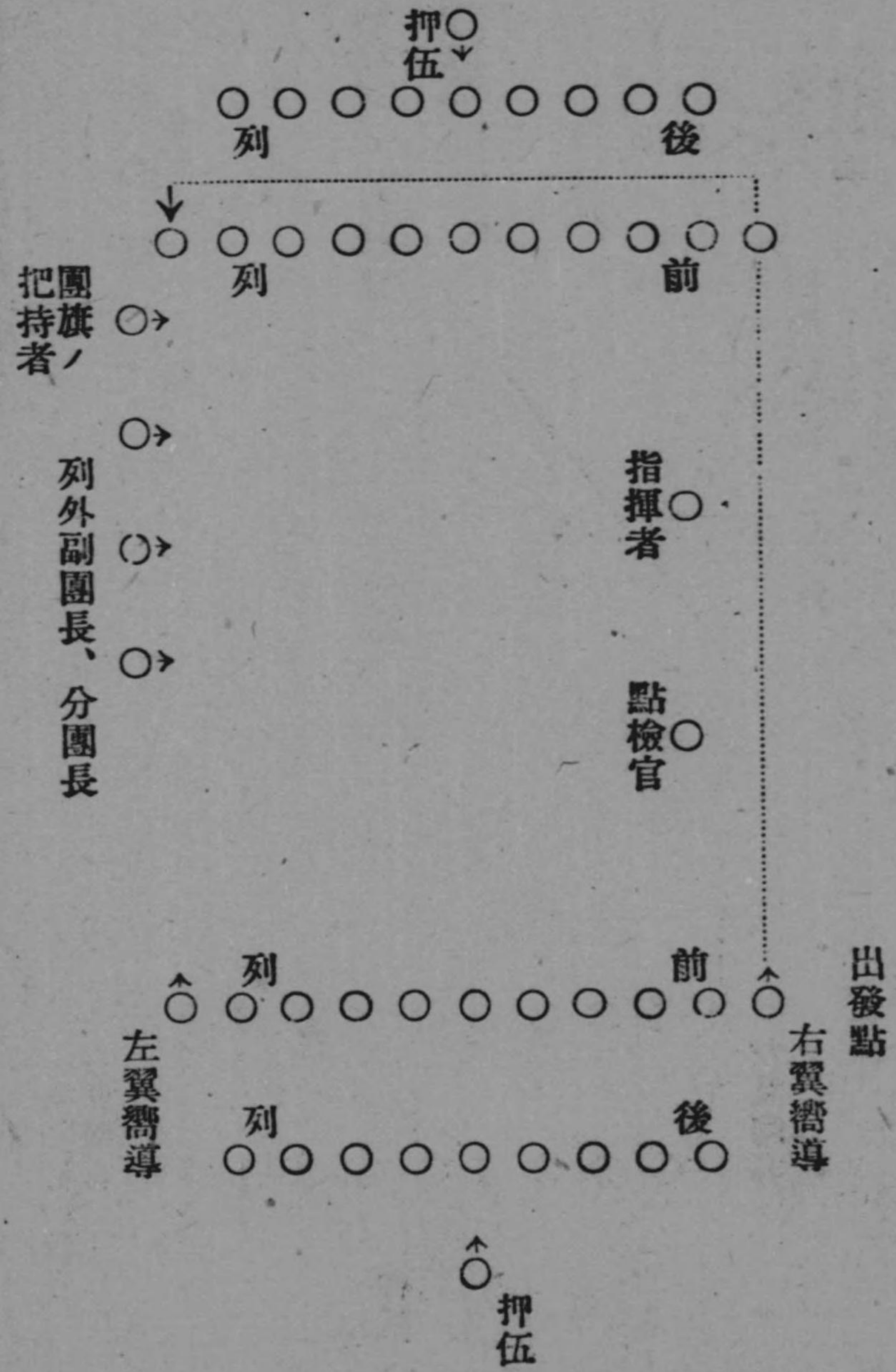
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消防組點檢規則ハ之ヲ廢止ス

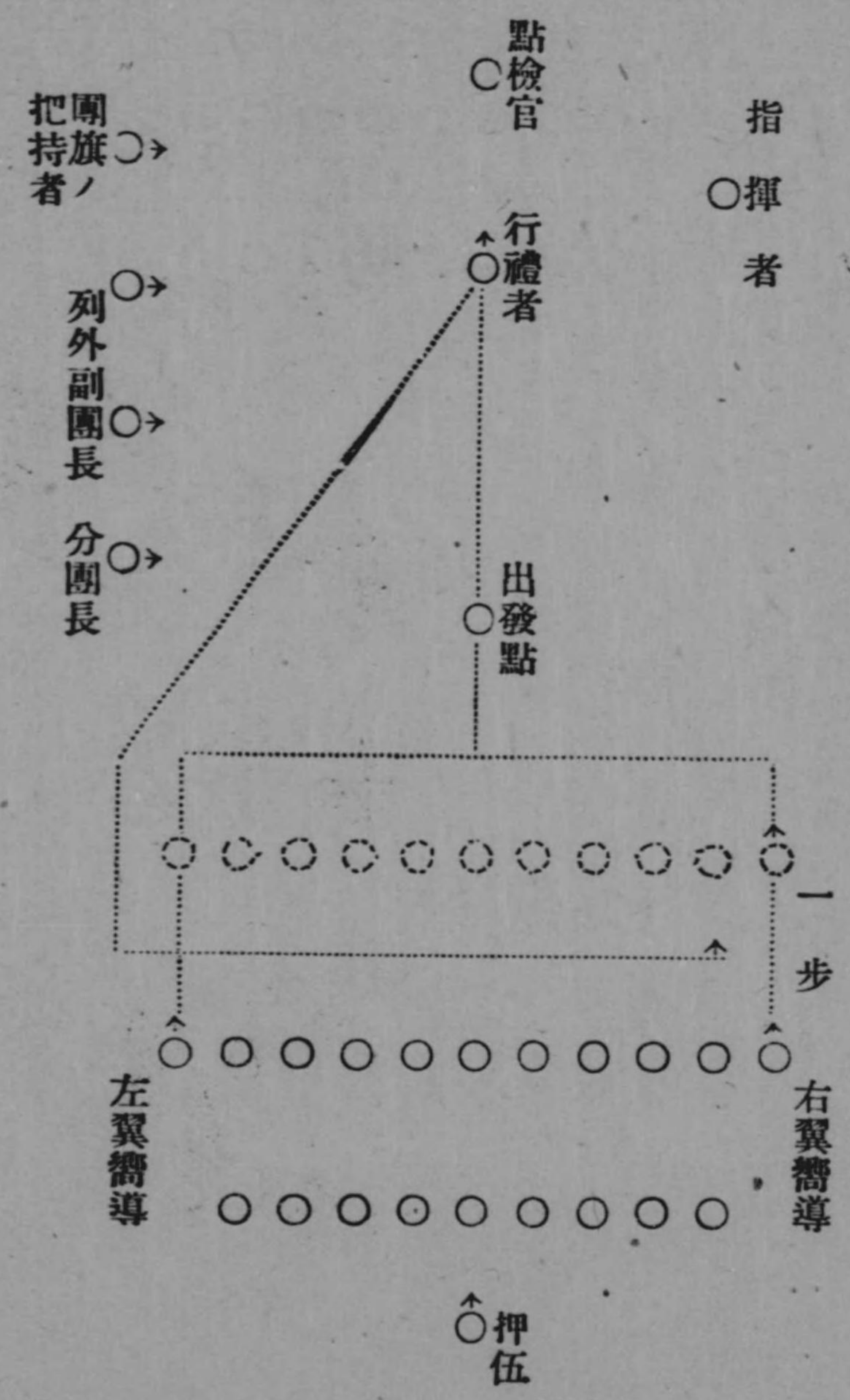
附圖第一圖 (第九條)



附圖第二圖 (第十二條)



防 護 團



附圖 第三圖 (第十二條)

特設防護團ニ關スル件

(昭和十五年十月二十五日
大阪府令第七十六號)

第一條 特設防護團トハ防空其ノ他災害ニ際シ學校、工場、事業場、會社、銀行、商店等ノ内部ニ於ケル自衛防護ノ爲組織スル團體ヲ謂フ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ特設防護團ヲ組織シタルトキハ其ノ名稱、編成、服務ノ方法、施設ノ概要ヲ所轄警察署長ヲ經テ知事ニ届出ツベシ

- 一 五百人以上ノ學生、生徒、兒童ヲ有スル學校
- 二 百人以上ノ従業員ヲ有スル工場、事業場、會社、銀行、商店
- 三 五十以上ノ病床ヲ有スル病院
- 四 定員五百人以上ノ興行場、集會所
- 五 其ノ他前各號ニ準ズルモノ

第三條 特設防護團ニハ當該學校、工場、事業場、會社、銀行、商店等ノ名稱ヲ冠スルモノトス

第四條 知事ハ所轄警察(消防)署長ヲシテ特設防護團ニ對シ必要ナル指揮監督ヲ爲サシム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

扶

助

防空従事者扶助令

(昭和十六年十二月十六日
勅令第千百三十七號)

第一條 防空法第十二條ノ規定ニ依ル扶助金ノ支給ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 扶助金ハ左ニ掲グル防空従事者(恩給法ニ依ル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ニシテ職務上防空ノ實施ニ従事スルモノヲ除ク)ニ付之ヲ給ス

一 防空監視隊員

二 警防團員

三 防空法第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ基ク地方長官ノ命令ニ依リ防空ノ實施ニ従事スル者

四 防空法第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ従事スル者

五 前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外地方長官又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施ニ従事スル者ニシテ内務大臣ノ指定スルモノ

六 防空法第八條ノ五ノ規定ニ依リ應急防火ヲ爲シ又ハ之ニ協力スル者

七 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ従業者ニシテ其ノ防空計畫ニ基キ防空ノ實施ニ従事スルモノ

第三條 扶助金ノ支給者ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 前條第一號又ハ第二號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空監視隊又ハ警防團ヲ設置シタル地方長官

- 二 前條第三號ニ掲グル者ニシテ地方長官又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ從事令書ヲ發シタル地方長官、防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者
 - 三 前條第四號又ハ第五號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ガ防空ノ實施ニ從事スル地ヲ管轄スル地方長官
 - 四 前條第六號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ノ從事スル應急防火ニ係ル建築物ノ所在市町村ノ市町村長
 - 五 前條第七號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者
- 第四條 扶助金ハ療養費、障害扶助金、打切扶助金、遺族扶助金及葬祭費ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ給ス
- 一 療養費ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官公費ノ治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ給ス
 - 二 障害扶助金ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給ス
 - 三 打切扶助金ハ療養ノ期間一年ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ給ス
 - 四 遺族扶助金ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
 - 五 葬祭費ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ給スルコトヲ得

打切扶助金ヲ給スベキトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ給セズ

防空従事者重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助金又ハ遺族扶助金ハ之ヲ給セザルコトヲ得

第五條 扶助金ノ額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

- 一 地方長官ノ給スルモノニ在リテハ別表第一欄ニ掲グル金額
- 二 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ給スルモノニ在リテハ當該支給者ガ別表第一欄ニ掲グル金額ノ範圍内ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額
- 三 市町村長ノ給スルモノニ在リテハ別表第二欄ニ掲グル金額ノ範圍内ニ於テ當該市町村長ガ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額

障害扶助金又ハ打切扶助金ハ前項ノ規定ニ依ル金額ノ範圍内ニ於テ傷痍疾病ノ程度身體障害ノ輕重等ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ給スベシ

第六條 防空従事者障害扶助金ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ者ガ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ起算シ三年以内ニ當該傷痍疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ障害扶助金ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給シタル障害扶助金ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給ス

第七條 本令ニ於テ遺族トハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之ト同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ本人ノ死亡後二年以内ニ昭和十五年法律第四號(委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律)ノ適用ヲ受ケ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之ト同一戸籍

内ニ在ルコトト爲ルニ至リタル者ニ付亦同ジ

本人死亡後分家シタル遺族又ハ分家シタル遺族ニ伴ヒ其ノ家ニ入りタル遺族ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ引續キ本人ト同一戸籍内ニ在ルモノト看做ス

届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同一戸籍内ニ在ル配遇者ト看做ス

本人死亡當時胎兒タル子又ハ孫出生シタルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ本人死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第八條 遺族扶助金ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前條第一項ニ掲グル順位ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子又ハ孫數人アルトキハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

父母及祖父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス

兄弟姉妹ニ遺族扶助金ヲ給スルハ其ノ者ガ未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限り前條第一項後段ニ規定スル者ニ遺族扶助金ヲ給スルハ既ニ之ヲ受ケタル者ナキ場合ニ限ル

第九條 遺族扶助金ヲ給スベキ順位ニ在ル遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遺族扶助金ハ其ノ次順位ニ在ル遺族ニ之ヲ給ス

一 死亡シタルトキ

二 所在不明ナルトキ

三 分家ノ場合ヲ除クノ外同一戸籍内ニ在ラザルニ至リタルトキ

第十條 扶助金ヲ受クベキ者ガ扶助金ヲ受クベキ事由ノ生ジタル日ヨリ起算シ二年以内ニ請求ヲ爲サザルトキハ當該扶助金ハ之ヲ給セズ

第十一條 扶助金ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條 扶助金ヲ受クベキ者同一ノ原因ニ付他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ扶助、給付又ハ給與ガ本令ノ扶助金ト同種ノモノナルトキハ本令ノ扶助金ハ之ヲ給セズ但シ其ノ額ガ本令ノ扶助金ノ額ヨリ少額ナルトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ニシテ本令ノ扶助金ト同種ノモノハ内務大臣之ヲ指定ス

附 則

本令ハ昭和十六年法律第九十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十六年勅令第千三百三十四號ヲ以テ昭和十六年十二月二十日ヨリ施行)

官廳防空

(別表)

葬祭費	遺族扶助金	打切扶助金	障害扶助金		療養費	種別
			其ノ他身體ニ著シキ傷害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ		
一〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	七〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇圓	第一欄
七〇	七〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	七〇〇	一、〇〇〇圓	第二欄

官廳防空令

(昭和十二年九月二十九日
勅令第五百五十號)

第一條 本令ニ於テ官廳防空計畫ト稱スルハ國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

第二條 內閣總理大臣又ハ各省大臣(陸軍大臣及海軍大臣ヲ除ク以下之ニ同ジ)ハ自ラ官廳防空計畫ヲ設定シ又ハ其ノ監督ニ屬スル行政官廳ニシテ必要アリト認ムルモノヲ指定シ官廳防空計畫ヲ設定セシムベシ

內閣總理大臣又ハ各省大臣ノ設定スル官廳防空計畫ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ行政官廳ノ設定スル官廳防空計畫ハ地方長官及防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第三條 官廳防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

第四條 內務大臣ハ防空法施行令第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始又ハ終止ヲ命ズルトキハ同時ニ內閣總理大臣及各省大臣ニ其ノ旨通知スベシ

內務大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキ又ハ內閣總理大臣及各省大臣前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係アル官廳防空計畫ノ設定者ニ其ノ旨通知スベシ

前二項ノ通知アリタル場合ニ於テ防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シテハ防空法施行令第六條ノ規定ヲ準用ス

第五條 國ニ於テ管理スル施設（陸海軍ノ官衙學校ヲ除ク）ニ關スル燈火管制ノ實施及訓練ニ關シテハ
防空法第八條及第十條第三項ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス但シ之ニ依リ難キ事
項ニ關シテハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ハ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ協議シ別段ノ規定ヲ設
クルコトヲ得

第六條 内閣總理大臣及各省大臣ハ其ノ監督ニ屬スル官廳防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又
ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

附 則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附

錄

戰時刑事特別法

(昭和十七年二月二十三日
法律第六十四號)

第一章 罪

第一條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ
火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機、
若ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放
チテ現ニ人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在セザル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機、若
ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

但シ公共ノ危険ヲ生ゼザルトキハ之ヲ罰セズ

第一項及第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ
火ヲ放チテ前條第一項及第二項ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生ゼシメタル者ハ
一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三條 第一條第二項及前條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若ハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同ジ

第四條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ刑法第七十六條若ハ同條ノ例ニ依ル同法第七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第七十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處シ同法第七十七條若ハ同條ノ例ニ依ル同法第七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第七十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷害ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス刑法第八十條ノ規定ハ第一項ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役、強盜ヲ以テ論ズベキトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ刑法第二百四十條前段若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處シ同法第二百四十條後段若ハ第二百四十一條後段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處ス

第一項ノ強盜ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ刑法第二百四十九條ノ罪又ハ之ニ關スル同法第二百五十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七條 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ被教唆者又ハ被幫助者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三項乃至前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第八條 戰時ニ際シ防空ノ實施ニ從事スル公務員ノ當該職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第九條 戰時ニ際シ刑法第六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

戰時ニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルモ仍テ解散セザルトキハ首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 戰時ニ際シ公共ノ防空ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ防空ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ氣象ノ觀測ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ氣象ノ觀測ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十一條 戰時ニ際シ郵便又ハ電氣通信ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ通信ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十二條 戰時ニ際シ瓦斯又ハ電氣ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯又ハ電氣ノ公共ノ利用ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十三條 戰時ニ際シ國防上重要ナル生産事業ノ設備其ノ他富該生産ノ用ニ供スル物ヲ損壞若ハ隱匿シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ物ノ效用ヲ害シ當該事業ノ遂行ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十四條 前四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五條 戰時ニ際シ業務上不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需品ノ買占又ハ賣借ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十六條 戰時ニ際シ刑法第二百二十四條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上 有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第二百五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第二百二十六條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二項ノ罪ヲ犯シ因テ刑法第二百二十七條ニ定ムル結果ヲ生ゼシメタル者亦前項ノ例ニ同ジ

第一項前段、第二項及第三項前段ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十七條 戰時ニ際シ刑法第三百三十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八條 戰時ニ際シ刑法第四百三三條又ハ第四百四十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第四百四十六條前段ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第四百四十七條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項前段、第二項前段及前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二項前段ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 戰時ニ於ケル刑事手續ニ關スル特例ハ本章ノ定ムル所ニ依ル

但シ第二十條ノ規定ハ裁判所構成法戰時特例第四條第一項ニ掲グル罪竝刑法第七十三條第七十五條及第二編第二章ノ罪ニ關スル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ越ユルコトヲ得ズ、辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ、但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第二十二條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ被告人其ノ他訴訟關係人ニ交付スルコトヲ相當ナラズト認ムルトキハ之ヲ交付セザルコトヲ得

第二十三條 豫審判事ハ商工會議所其ノ他ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ公判期日前前項ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ集取シタルモノニ付之ヲ準用ス

第二十四條 刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ第五條第一項竝昭和五年法律第九號第二條及第三條

ノ竊盜ノ罪ニ關スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條 地方裁判所ノ事件ト雖モ刑事訴訟法第二百四十三條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セズ

第二十六條 有罪ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪ト爲ルベキ事實ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スニハ證據ノ標目及法令ヲ掲グルヲ以テ足ル

第二十七條 國防保安法第三十四條第二項ノ規定ニ依リ上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ其ノ事件裁判所構成法戰時特例第四條第一項第二號ニ掲グル罪ニ關スルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スベキ旨ヲ言渡スベシ

裁判所構成法戰時特例第四條第一項第二號ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シ控訴院ニ上告アリタル場合ニ於テ其ノ罪ガ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯サレタルモノナルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ控訴院ハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院ニ移送スベシ此ノ場合ニ於テハ事件ハ上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シタルモノト看做ス

第二十八條 上告裁判所訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ上告申立人及對手人ニ通知スベシ

上告申立人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スベシ
上告ノ對手人ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ附帶上告ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第四百二十二條、第四百二十三條及第四百二十四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ
 第二十九條 上告裁判所上告趣意書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ
 檢事ノ意見ヲ聽キ辯論ヲ經ズシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得
 第三十條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス
 第三十一條 第二十一條乃至第二十四條、第二十六條及前條ノ規定ハ軍法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準
 用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第三百四十二條トアルハ陸軍々法會議法第三百八十八條又ハ海軍々
 法會議法第三百九十條トシ刑事訴訟法第三百三十四條トアルハ陸軍々法會議法第三百六十七條又ハ
 海軍々法會議法第三百六十九條トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十七年三月十三日勅令第百七十一號
 以テ昭和十七年三月二十一日ヨリ施行)
 昭和十六年法律第九十八號ハ之ヲ廢止ス

第二十條及第二十四條乃至第二十九條(第二十四條及第二十六條ニ付テハ第三十一條ニ於テ準用スル
 場合ヲ含ム)ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ
 戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 昭和十六年法律第九十八號ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

戰爭保險臨時措置法

(昭和十六年十二月十九日
 法律第九十六號)

第一條 本法ニ於テ戰爭保險トハ戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行為ニ因ル火災又ハ損壞(消防又ハ避難ニ必
 要ナル處分ニ因ル損壞ヲ含ム)ノミヲ保險事故トスル損害保險ヲ謂フ
 第二條 戰淨保險ノ目的タル物ニ付政府ノ指定スル保險會社ニ對シ保險料ヲ添ヘ戰爭保險契約ノ申込
 ヲ爲シタル者アルトキハ申込ノ時ニ於テ其ノ物ニ付申込者ト當該保險會社トノ間ニ戰爭保險契約成
 立シタルモノト看做ス
 第三條 被保險者ハ其ノ負擔ニ於テ損害ノ防止ニカムルコトヲ要ス
 第四條 政府ハ國民經濟上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ戰爭保險ノ保險金ノ支拂ヲ
 受クル者ニ對シ其ノ保險金ノ處分ニ關シ必要ナル指示ヲ爲シ又ハ保險會社ニ對シ戰爭保險ノ保險金
 ノ支拂ヲ延期スベキコトヲ命ズルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ支拂ヲ延期シタル保險金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ附スベシ
 第五條 左ノ場合ニ於テハ保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ戰爭保險ノ保險金ノ全部又ハ一部ノ支拂
 ノ責ニ任ゼズ
 一 被保險者ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ保險ノ目的ニ付損害ノ豫防又ハ防止ヲ怠リ
 タルトキ
 二 填補スベキ損害ノ額ガ命令ヲ以テ定ムル額ニ滿タザルトキ

第六條 保險會社ノ填補スベキ損害ノ額ガ保險金額ニ滿タザル場合ニ於テハ保險金額ヨリ其ノ損害ノ額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ殘存保險期間ノ保險金額トス但シ其ノ殘額ガ命令ヲ以テ定ムル額ニ滿タザルトキハ戰爭保險契約ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 本法ニ定ムルモノノ外保險ノ目的、保險金額、保險料、保險期間其ノ他戰爭保險ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 保險會社ガ填補スベキ損害ノ額トシテ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超ユル額ヲ認定セントスルトキハ損害ノ原因及額ニ關シ戰時損害保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第九條 戰爭保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第十條 政府ハ戰爭保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ保險會社、保險契約者又ハ被保險者ヲシテ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ戰爭保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ戰爭保險ノ目的ノ所在ノ場所、保險會社ノ營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ當該物件又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十一條 保險會社ノ戰爭保險關係ニ基ク支拂金額及其ノ支拂ノ爲ニ借入レタル金額ノ利息ノ合計額ガ保險會社ノ戰爭保險關係ニ基ク收入金額及其ノ利息並ニ戰爭保險ノ保險事故發生シタル保險ノ目的ニ付損害保險契約アルトキハ其ノ保險料中命令ヲ以テ定ムル額ノ合計額ヲ超ユルトキハ政府ハ其ノ差額ニ相當スル金額ヲ保險會社ニ對シ補償ス

保險會社ノ戰爭保險關係ニ基ク支拂金額及其ノ支拂ノ爲ニ借入レタル金額ノ利息ノ合計額ガ保險會社ノ戰爭保險關係ニ基ク收入金額及其ノ利息並ニ戰爭保險ノ保險事故發生シタル保險ノ目的ニ付損害保險契約アルトキハ其ノ保險料中命令ヲ以テ定ムル額ノ合計額ニ滿タザルトキハ保險會社ハ其ノ差額ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スベシ

第一項ノ規定ニ依ル補償金及前項ノ規定ニ依ル納付金ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險會社ニ對シ戰爭保險ノ爲ニ支出シタル經費ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 同條第二項ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者

法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前項第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第一項第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十七年一月二十日勅令第二十四號ヲ以テ昭和十七年一月二十六日ヨリ施行)
 戦争保険ノ目的タル物ニ付本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ政府ノ指定スル保險會社ニ對シ保險料ヲ添
 へ戦争保険契約ノ申込ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ申込ガ保險事故發生後ナルトキハ其ノ發生ノ時ニ
 遡リテ其ノ物ニ付申込者ト當該保險會社トノ間ニ命令ノ定ムル金額ヲ以テ保險金額トスル戦争保険契
 約成立シタルモノト看做ス
 前項ノ規定ハ本法施行前保險事故發生シタル場合ニモ之ヲ適用ス
 損害保險國營再保險法第十四條中「損害保險國營再保險審査會」ヲ「戰時損害保險審査會」ニ改ム

戰時災害保護法

(昭和十七年二月二十四日法律第七十一號)

第一章 總 則

第一條 戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル者竝ニ其ノ家族及遺族ニシテ帝國臣民タルモノハ本法ニ依リ之ヲ保護ス

第二條 本法ニ於テ戰時災害ト稱スルハ戦争ノ際ニ於ケル戰闘行爲ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害ヲ謂フ

第三條 保護ハ救助、扶助及給與金ノ支給ノ三種トス

第四條 保護ハ保護ヲ受クベキ者ノ住所地(救助ニ付テハ現在地)ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第二章 救 助

第五條 救助ハ戰時災害ニ罹リ現ニ應急救助ヲ必要トスル者ニ對シ之ヲ爲ス

第六條 救助ノ種類左ノ如シ

- 一 收容施設ノ供與
- 二 焚出其ノ他ニ依ル食品ノ給與
- 三 被服、寢具其ノ他生活必需品ノ給與及貸與
- 四 醫療及助産
- 五 學用品ノ給與

六 埋 葬

七 前各號ニ掲グルモノノ外地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノ

救助ハ地方長官ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ要救助者（埋葬ニ付テハ埋葬ヲ行フ者）ニ對シ金錢ヲ給シテ之ヲ爲スコトヲ得。

救助ノ程度、方法及期間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 地方長官ハ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ救助ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第八條 地方長官ハ要救助者ヲシテ救助ノ實施ニ協力セシムルコトヲ得

第九條 救助ヲ行フ爲テ必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ一時勅令ヲ以テ定ムル施設ヲ管理シ、土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スルコトヲ得

第十條 前條ノ規定ニ依リ管理、使用若ハ收用シ又ハ保管セシムル準備ノ爲必要アルトキハ地方長官ハ當該官吏ヲシテ施設、土地、家屋、物資ノ所在スル場所又ハ物資ヲ保管セシムル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得

地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ物資ヲ保管セシメタル者ヨリ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ當該物資ノ所在スル場所ニ立入り検査セシムルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ施設、土地家屋又ハ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

第十四條 第一項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズルモノノ第一項及第二項ニ規定スル職權ノ委任ヲ受ケタルトキハ第一項、第二項及前項中當該官吏トアルハ當該吏員トス

第十一條 第七條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償ス

第十二條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事又ハ協力スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第十三條 第九條ノ規定ニ依リ施設ヲ管理シ、土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ、物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ノ額ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル救助ニ關スル職權ノ一部ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任スルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ依リ地方長官ガ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任シタル第七條乃至第十條ノ規定ニ依ル職權ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履行ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 地方長官ハ救助ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣、市町村又ハ之

ニ準ズルモノヲシテ救助ニ要スル費用ヲ一時繰替支辨セシムルコトヲ得

第三章 扶助

第十六條 扶助ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ當該ノ傷痍、疾病、身體障害又ハ死亡ノ爲生活スルコト困難ト爲リタルモノニ對シ之ヲ爲ス但シ傷痍、疾病又ハ死亡ガ其ノ者又ハ扶助ヲ受クベキ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因レルモノナルトキハ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一 戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者

二 戰時災害ニ因ル傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル場合ニ於テ仍身體ニ著シキ障害ヲ存スル者

三 前二號ニ掲グル者ノ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻ト同様ノ關係ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ）若ハ直系卑屬ニシテ前二號ニ掲グル者ト同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ前二號ニ掲グル者ノ直系尊屬ニシテ前二號ニ掲グル者ガ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ引續キ同一ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ

四 戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ配偶者若ハ直系卑屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ戰時災害ニ罹リタル時之ト同一ノ家若ハ世帯ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世帯ニ在ルモノ

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者本法ニ依リ救助ヲ受クルトキハ救助ヲ受クルノ間其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ

扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條 扶助ノ種類左ノ如シ

- 一 生活扶助
- 二 療養扶助
- 三 出產扶助
- 四 生業扶助

第十八條 扶助ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル時ヨリ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得

第二十條 扶助ヲ受クル者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第二十一條 扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

- 一 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關シ地方長官ノ爲ス指示ニ從ハザルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキ
三 素行者シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第四章 給與金ノ支給

第二十二條 戰時災害ニ因リ死亡シタル者アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲身體ニ著シキ障害ヲ存ズル者アルトキ其ノ者ニ對シ亦同ジ

第二十三條 戰時災害ニ因リ住宅(水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル舟ヲ含ム)又ハ家財ノ滅失又ハ毀損アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ對シ給與金ヲ給ス

第二十四條 業務ノ性質上戰時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニ従事スルコトヲ要スル者當該業務ニ従事中戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス此ノ場合ニ於テハ第二十二條ノ給與金ハ之ヲ給セズ

前項ノ業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 正當ノ理由ナクシテ給與金ノ支給ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキハ其ノ者ニ對シ給與金ヲ給セザルコトヲ得

第五章 雜 則

第二十六條 本法ニ依ル保護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助又ハ扶助ニ非ザル

モノトス

第二十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租税其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第二十八條 本法ニ依ル給與金品ハ既ニ給與ヲ受ケタルト否トニ拘ラズ之ヲ差押フルコトヲ得ズ

第二十九條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六章 罰 則

第三十條 第七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 詐僞其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ保護ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ當該吏員ノ立入検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

933
157

製本控

933	函	157	號	年	月	日
防空關係法令集						
冊						
備考						



933
157

